

「急性経口毒性試験」結果の概要

*** 目的：経口投与した場合の安全性の確認。***

[試験機関] (株)食環境衛生研究所

[被検物質] オキシリング-S P (原液) ≈ オキシリング S P スプレー の 600 倍濃度

[供試動物] S P F マウス (雌・5 週齢) : 「対照区」 = 5 体、「試験区」 = 5 体

[試験内容] 「試験区」の供試動物に設定濃度の被検物質を経口から投与し、
投与しない「対照区」の供試動物と比較観察することで安全性を検証する。

*** 「試験区」とは、供試動物に被検物質を経口投与する領域。***

*** 「対照区」とは、供試動物に投与しない領域。***

飼育管理：室温 = 23°C ± 2°C、 照明時間 = 12 時間 (7:00~19:00)

投与濃度：2,000 mg/kg (被検物質の質量 (mg) / 供試動物の質量 (kg))

*** 例えば、体重 30 g のマウスであれば、60 mg のオキシリング (原液) を投与すること。***

投与方法：経口ゾンデ (投与器) を用いて胃内に単回投与

臨床観察：観察 14 日間、体重測定 3 回、解剖 (試験終了後)

[試験期間] 2013.06.22 ~ 07.05

[報告作成] 2013.07.29 (試験機関による報告書作成日)

【臨床観察結果】

① 被検物質を投与し、30 分後・60 分後・120 分後・240 分後に観察

② 被検物質を投与し、1 日後、2 日後、3 日後、··· 14 日後に観察

[経過観察] ① = 異常なし、② = 元気消失、③ = 流涎、④ = 発咳

区分	動物 (No.) と 観察所見	投与後経過時間																	
		30 分後	60 分後	120 分後	180 分後	240 分後	1 日後	2 日後	3 日後	4 日後	5 日後	6 日後	7 日後	8 日後	9 日後	10 日後	11 日後	12 日後	13 日後
対照区	(1)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(2)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(3)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(4)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(5)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
試験区	(6)	②④	②④	②④	②④	②④	④	④	④	④	④	④	①	①	①	①	①	①	①
	(7)	②④	④	④	④	④	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(8)	②③ ④	②④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	①	①	①	①	①	①	①
	(9)	②④	②④	④	④	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(10)	②③ ④	②④	④	④	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①

[体重観察] 個体ごとの記録 (単位: g)

区分	動物 (No.) と 測定体重	試験開始 経過時間		
		0日	7日	14日
対照区	(1)	29.5	31.0	34.5
	(2)	31.0	33.0	35.5
	(3)	29.5	31.0	34.0
	(4)	30.0	32.0	33.5
	(5)	29.0	32.3	33.5
平均		29.8	31.9	34.2
試験区	(6)	29.5	27.5	33.0
	(7)	30.0	32.5	33.0
	(8)	30.0	32.0	34.0
	(9)	29.0	30.5	31.0
	(10)	29.5	28.0	31.0
平均		29.6	30.1	32.4

[解剖観察] 個体ごとの所見

区分	動物 (No.)	試験終了後の解剖検査所見
対照区	(1)	著名な変化は見られない
	(2)	著名な変化は見られない
	(3)	著名な変化は見られない
	(4)	著名な変化は見られない
	(5)	著名な変化は見られない
試験区	(6)	著名な変化は見られない
	(7)	著名な変化は見られない
	(8)	著名な変化は見られない
	(9)	著名な変化は見られない
	(10)	著名な変化は見られない

この投与濃度においては、投与直後から 5 日目までは一定の臨床症状が見られるが、それ以降は見られない。
試験後の解剖検査においても、著名な変化は見られない。